

## 地域医療構想の推進に向けた公立・公的病院の役割の再検証について

### 1 これまでの経緯

- 令和2年1月17日付けで、厚生労働省医政局長より、急性期の病床を有する公立・公的医療機関等のうちから**再編・統合について再検証の要請対象となる医療機関を選定し、再検証の要請通知を发出。**

公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証等について  
 「当面、都道府県においては、「経済財政運営と改革の基本方針2019」における一連の記載<sup>(※)</sup>を基本として、地域医療構想調整会議での議論を進めていただくようお願いする。」  
<sup>(※)</sup> 経済財政運営と改革の基本方針2019の記載  
 ○医療機関の再編統合を伴う場合 → 遅くとも2020年秋頃  
 ○それ以外の場合 → 2019年度中

- 令和2年3月4日付けで、厚生労働省医政局長より、**再検証等の期限について通知を发出。**

具体的対応方針の再検証等の期限について  
 「**2019年度中とされた見直しの期限に関しては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から政府として一定期間はイベント等について中止、延期等の対応を要請していること等と歩調を合わせつつ、厚生労働省において改めて整理の上、通知することとする。**」

- 令和2年7月17日付で、**骨太の方針2020が閣議決定。**

骨太の方針（経済財政運営と改革の基本方針）2020  
 「感染症への対応の視点も含めて、質が高く効率的で持続可能な医療提供体制の整備を進めるため、**可能な限り早期に工程の具体化を図る。**」

- 令和2年8月31日付けで、厚生労働省医政局長より、**再検証等の期限について通知を发出。**

具体的対応方針の再検証等の期限について  
 「**再検証等の期限を含め、地域医療構想に関する取組の進め方について、「経済財政運営と改革の基本方針2020」、社会保障審議会医療部会における議論の状況や地方自治体の意見等を踏まえ、厚生労働省において改めて整理の上、お示しすることとする。**」

### 2 再検証要請対象医療機関一覧と協議状況

本県の再検証要請対象医療機関は、下表のとおり9医療機関である。

〈参考 県内9病院における再検証の検討状況〉 (令和2年11月30日現在)

	構想区域	医療機関名	協議状況
1	名古屋・尾張中部	中日病院	・急性期病床42床を、回復期病床に転換
2	名古屋・尾張中部	国立病院機構 東名古屋病院	・2018年に408床から330床に削減したことをもって、既に対応済であることを地域の関係者で確認 ・神経難病、重症心身障害児者、結核等の患者の受け皿としての病院の特性を確認
3	名古屋・尾張中部	ブラザー記念病院	・2018年に急性期病床30床を廃止済であることを地域の関係者で確認
4	海部	津島市民病院	・病院全体で440床を352床にダウンサイジング
5	海部	あま市民病院	・休棟45床を、回復期病床として再開
6	尾張西部	一宮市立 木曾川市民病院	・急性期病床90床を82床にダウンサイジングし回復期病床に転換
7	尾張北部	医療療育総合センター 中央病院	・2018年に急性期病床110床から89床に削減したことをもって、既に対応済であることを地域の関係者で確認 ・障害者医療に特化している特性を確認
8	西三河北部	みよし市民病院	・急性期病床68床を、急性期病床34床及び回復期病床34床に転換
9	西三河南部西	碧南市民病院	・一定数以上の救急車受入実績を有する5病院（安城更生病院、刈谷豊田総合病院、碧南市民病院、西尾市民病院、八千代病院）で連携協定を締結 ・今後、急性期病床64床のダウンサイジングを行う計画について、地域医療構想推進委員会において協議予定